



No.381 令和2年10月27日

おおたこうれん

発行所
東京都大田区南蒲田1-20-20
電話(3737)0797・FAX(3737)0799
一般社団法人大田工業連合会
発行人 会長 舟久保利明
E-mail: office@ootakoren.com
ホームページ: http://www.ootakoren.com/
印刷所
東京都大田区下丸子2-24-26
電話(3758)7788
光写真印刷株式会社



初めて見るマシニングセンターに興味の視線



指導員のサポートを受けて、おそろおそろプレス機を体験



子どもたちの奮闘ぶりを見つめる橋本校長と舟久保会長



指導側はもちろん、参加者にもマスクの持参と着用に協力いただいた

当会と大田区が主催する「産業のまちものづくり体験教室」が8月20日に行われた。この催しは、区内に在住もしくは在学の小学4年生から6年生を対象として毎年夏に2度開催している「産業のまち発見隊」の代替イベント。今年は緊急事態宣言の影響による子どもたちの夏休みの短縮等に伴って7月の第1回目は中止となったが、第2回目となる今回は午前中に工場見学、午後にものづくり体験という例年のプログラムを短縮し、ものづくり体験教室のみ行う形で実現に至った。会場は例年通り都立城南職業能力開発センター大田校。感染防止対策として受付時の検温や入室時の消毒を徹底したほか、開・閉講時の全体集合での挨拶を省いたり、工作で出たゴミは各自で持ち帰るなど、可能な限りの対策を講じた。また、25組の参加者を5班に分散して大人数の密集が起こらないよう開催方法にも配慮した。

実習室ごとに使える設備が異なるため、作るものは班ごとに別々だが、いずれも指導員の方々が考案した世界でひとつだけのアイテム。例えば「オリジナル時計」は、白いアクリル板の上にマシニングセンター

を使って自分の名前や好みの文字盤を刻む一品だ。工具の中には子どもたちが初めて見るものや、場内には本物の工場が使われているものと同様の設備が揃っており、なかにはCADを使ってデザインする工程もあったり子どもたちは興味津々だ。

ただ、実際に作業を始めてみると、初めての体験の連続に苦戦する子も。例えば「金属製ペン立て」はプレス機でパーツを曲げたり、土台部分にインシヤルを打刻したりと失敗できない作業が多く、「テープカッター」は旋盤加工やタップハンドルを使った穴開けに高い集中力を伴う。それぞれに高いハードルが設けられているが、保護者の手助けも受けながら、みな黙々と作業を進めていく。

作業中には城南職業能力開発センター大田校の橋本大校長が各室を訪れ、参加者に挨拶。「この機会を通じてモノを素材から作り上げる醍醐味を感じていただけたら嬉しいです」と述べて、ものづくりの魅力子どもたちに語った。

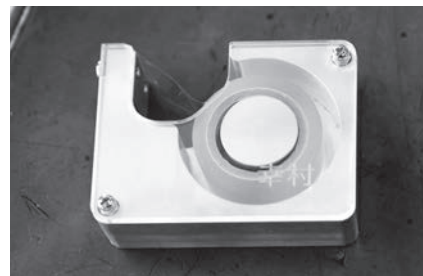
また、この日は当会の舟久保利明会長も会場を訪れ、橋本校長と会場を巡回。一生懸命作業に打ち込む子どもたちの姿に目を細めていた。

午前中の限られた時間ではあったが、10名の指導員による丁寧な指導のおかげもあって全員が時間内に完成することができた。今年は終わるまで静粛な中での作業となったが、どの子の表情も例年同様の達成感に満ちていた。閉講時のアンケートにも「ものづくりにはいろいろな人が関わっていることを知った」「何かに集中していると時間がすぐに過ぎていくことがわかった」など前向きな感想が並んだ。

なお、城南職業能力開発センターの指導員の方々には5種類のオリジナル工作物を考えていただくなど、例年以上に準備のご協力を頂いた。こうした状況下によりながら同校はじめ各所のご尽力によって今年も継続して本企画が実現できたことに感謝したい。



この日の工作物の例、右上から時計回りに、オリジナル時計、テープカッター、キーホルダー、ペン立て、スマホスタンド



「産業のまちものづくり体験教室」開催

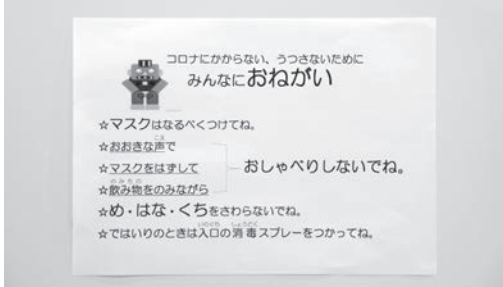
親子で楽しむ「ロボット作り教室」開催

8月22日と23日の2日間、当会と大田区が主催する親子で楽しむ「ロボット作り教室」が大田区産業プラザP.i.Oで開催された。

8月恒例のこの教室も今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、事務局内で開催の可否から慎重に検討。その上で参加者数を例年の半分に縮小する形とし、両日とも午前を小学3・4年生の部、午後を1・2年生の部に分け、十分なソーシャルディスタンスが取れる各回15組ずつの4部制にして開催することを決めた。今年も芝



今年も多くの親子が参加したロボット作り教室



講習マナーを子どもたちにも分かりやすいように掲示



事務局スタッフも常にフェイスガード、マスク、手袋を着用



不慣れにドライバーを持つ子どもたちをパパやママがサポート



パレットに部品を並べて、整理整頓の大事さを学ぶ

浦工業大学の事業法人であるエスアイテックに協力いただき、同校の学生たちが親子をサポート。こうした状況にありながら、区内に在住・在学する児童から定員（60組）の2倍を超える応募があり、当教室の人気の高さを改めて感じた。

この日は「ステッピ―」というロボットキットを使用。これはリンク機構で動く二足歩行ロボットで、足の動きと連動した左右のアームで綱渡りもできるユニークさが魅力だ。まずは19種類の部品

をパレットの上に並べ、取りやすいように整頓。そして、それぞれ持参した工具を手にとってドライバーや十字レンチの持ち方を全体で学び、サポートの学生が各列に加わって実作業に入っていく。3種類のネジなど似たような部品もあり、ナットやワッシャーなど小さな部品は一度無くすと簡単には見つからないため、どの子も自然と慎重な表情になる。聞いたことのない部品ばかりでプラモデルのように簡単には行かず、ナットとナイロンナットの締め方の違いな

ど注意点も多い。そして奮闘の末に組み上がったのも、その次のギアボックスとリモコンボックスの配線がさらに難関。線がねじれてしまつと正しく動かないため、ここは親子で力を合わせて作業に臨む姿が多く見られた。

会場には簡単な試走コースも設けられ、組み立てが終わった子から動作をチェック。なかにはまっすぐ進まなかったり、歩けても綱渡りがうまくいかないという子もいて、机とコースを何度も行ったり来たりしながら改善に励む姿が印象的だった。

1・2年生にとってはややハードルの高い課題だったようだが、全員が時間内に完成。きつと短い夏休みの中で忘れられない思い出になったに違いない。なお、会場では受付時の検温、手指の消毒の喚起、共用部分の拭き取り、毎時間の換気、マナーの掲示など感染防止に努めた。当事務局の西川事務局長も「世間で次々と夏休みのイベントが中止になり、子どもたちの楽しみがなくなっている中で、今年もどうにか継続して開催ができて良かった。陽性者を絶対に出さないという決意の下で大変な面もあったが、ここから地元の工業に興味を持ち、将来のものづくり人材が出てきてくれたら嬉しい」と安堵の表情を見せ、例年以上に感慨深い回となった。

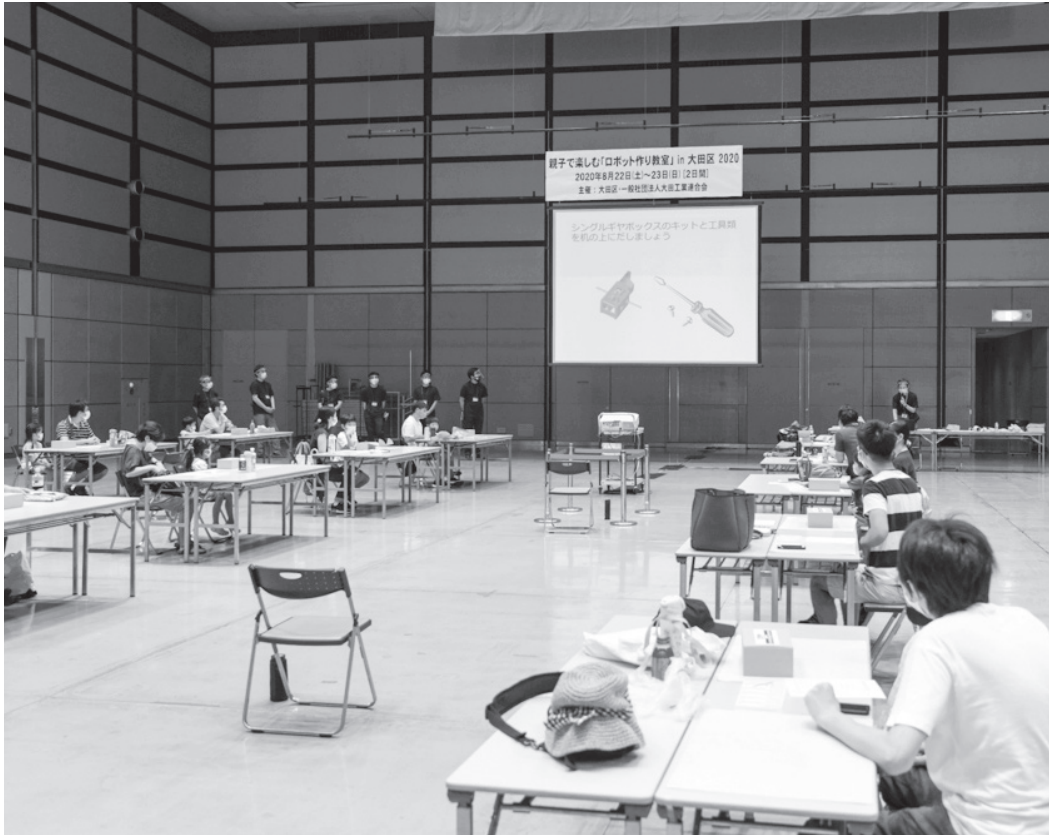
なお、「産業のまちものづくり体験教室」と「親子で楽しむロボット作り教室」は秋にも第2回目の開催を予定している。



できあがったロボットを専用コースで試運転



綱渡りができる「ステッピ―」世界で一体だけのマイクロロボットだ



例年より少人数制とし、会場のレイアウトもソーシャルディスタンスを考慮した



天空橋駅直結のHICity。7月に街びらきを迎えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で本格稼働がずれこんでいた

羽田空港跡地第1ゾーン整備事業（第一期事業）において公民連携で開発が進められてきた新産業創造・発信拠点「HANEDA INNOVATION CITY」レポート

はねだ新時代へ

HANEDA INNOVATION CITYレポート

③

2020年開業エリアが本格稼働

INNOVATION CITY（羽田イノベーションシティ／略称HICity）の2020年開業エリアが9月18日に本格稼働しました。

「先端」と「文化」の2つをコア産業とし、新たな体験や価値を創造・発信する未来志向のまちづくりの推進拠点となるHICity。この日は一部の区民も招いて自動走行バスの試乗体験や30種類を超える最先端ロボットのデモなどが開催されたほか、区や施設関係者の要職の方々が出席した記念式典も行われました。

式典では民間側の事業主体である羽田みらい開発の山口皓章社長に続いて松原区長が挨拶。区も肝入りで進めてきた本施設の本格稼働に大きな期待を語った上で「区では平成27年に羽田跡地の構想をまとめ、29年にここで鉄入れ式を行った。それから3年経ち、このような形で立派に完成を迎えられた。この街が日本の新しい産業を生み出していく拠点となるよう我々も心から願っている」と喜びを語りました。また、次に登壇した大田区議会の塩野目正樹議長も「今はコロナ禍という大変厳しい状況にあるが、今日を機に少しずつアクセルを踏んで行くべきだと思う。そして文化や産業など大田区の様々なポテンシャルを国内外に発信していきたい」と喜びを述べました。



記念式典では松原区長はじめ関係する要職の方々が勢揃いして鏡開き



フードコートやダイニングバー、ライブハウスのほか、足湯を設置したスカイデッキもあり、羽田空港が一望できる



当日は自律走行バスのテスト運行ははじめ、様々なイノベーション技術がお披露目された

ク開催延期の影響で開業が遅れることに。区の担当者によれば、取引拡大のための場としての「テナントゾーン」と「交流空間ゾーン」という2つの機能のうち、前者については準備が整った企業から順次入居。後者についてはオンライン活用などを含めた「新しい生活様式」に適した運用方法を再検討しているとのこと。当面はイベントなどを中心に利用しながら利用ニーズや効果的な情報発信方法の把握などに努めていく予定で、大田区産業経済部の執務室も現地に構えて体制の強化を図っていく予定です。

ついに本格的に動き始めた大田区のイノベーションの新しい発信拠点。今後の発展にも注目していきたいでしょう！



本格運用が待たれるハネダピオ

いつかは必ず訪れる事業承継問題、考えることを後回しにしていますか？ オンライン 大田区事業承継セミナー

日 時：2021年1月26日(火) 18:30～20:30

参加費：無料

申込締切：1月22日(金)

申込先：(一社)大田工業連合会ホームページ

<http://www.ootakoren.com>

webからお申し込みください。お申し込み締切後に、URLをお送りします。

主 催：大田区/一般社団法人大田工業連合会

問 合 先：(一社)大田工業連合会 Tel.03-3737-0797

本セミナーはweb会議ツールWebexを利用したオンラインセミナーです。

事業承継、さらには他事業の引き受けもされている二名の若手経営者がパネリストとして登場し、多くの事業承継に携わってきた行政書士をコーディネーターに招いてパネルディスカッション形式で進行する予定です。

※なお、事業承継はデリケートな件を含みますので、受講者同士の顔と名前は分からない形で開催いたします。

コーディネーター 大井公美子氏 大井行政書士事務所代表 行政書士・ファイナンシャルプランナー
パネリスト 舟久保利和氏 株式会社昭和製作所 代表取締役社長
パネリスト 輪島 基史氏 古民家カフェ運月 創業・運営

皆さんどうしているのかな？



事務局から 第7回



HICity(エイチ・アイ・シティと読むそうです)の青年部主催による見学会が9月25日に開催され、当事務局も参加してきました。青年部では例年、近県での工場見学会を行っています。コロナ禍で自粛となった今年は代替として区の工業の発展に高い期待がかかる最新施設を見学することになりました。本紙でも過去2度の連載で追ってきたHICityですが、やはり百聞は一見に如かずで、完成した建物と設備を目にしてイノベーションの萌芽を感じることができました。HANEDA×PiOなどから革新に繋がる交流が生まれることを願います。施設内では当会が昨年行った希望学セミナーに参加された企業が制作した「希望の星グラス」で大田区の地ビールが飲めるダイニングバーも発見。今後、企業向けの見学ツアーも開催されるので、ぜひお出かけください。

当会では今後も可能な範囲で積極的な活動を行ってまいります。秋には今年2回目の「ものづくり体験教室(11月21日午前)」と「ロボット作り教室(10月17・18日)」を開催します。依然厳しい状況が続いていますが、会員企業の皆様には大田工連の活動に引き続きお力添えいただければ幸いです。

《特別インタビュー》 HANEDA×PiOに懸ける期待 エビナ電化工業・海老名伸哉社長に聞く

ついに本格稼働が始まったHICity。前ページでお伝えしたようにHANEDA×PiO(ハネダピオ)の稼働はまだ先のことになりますが、既に区内からテナントゾーンの入居を決めている企業があります。ここでは6社合同で入居を決めたエビナ電化工業の海老名伸哉社長に話を聞きました。

——まずは今回、6社合同でハネダピオに入居を決められた経緯を教えてください。

昨年の夏頃に具体的な計画が分かってきて、本格的に入居の検討を始めたのは募集が始まった秋以降のことです。そして入居料等を考えるうちに何社かで一緒にやれないかと思い、蒲田工業協同組合と城南ブレインズの会員企業にお声がけしました。

——現在はどんな準備をされていますか？

今は弊社のラボの建設にも関わったコンサルタントに入ってもらいながら、6社で統一したコンセプトを固めているところです。各社の意見や要望を集約して「イノベーションが起こる環境作り」をしっかりと考えた上で来年4月の入居を目指しています。

——ハネダピオの入居で御社が最も期待することは何ですか？

国内人口が減っていく中で、当社では今後、アメリカを中心とした海外からの受注を増やしていきたいと考えています。その上で、会社に籠もっているだけではどうしても受け身になってしまいますから、ハネダピオのような場所に出いくことも大切だと思っています。ハネダピオを自社のゲートウェイにして、情報発信はもちろん、興味を持っていただいたお客様をそのまま自社に案内できるような流れも作っていききたいです。



——入居企業だけでも同業種・異業種との交流が増えそうですね。

そうですね。別の会社の社員同士が接することはあまりないので、他社の人と一緒にもの考えることで協働の場が生まれることに期待しています。また、川崎の殿町と繋がる羽田連絡道路が開通して羽田空港一帯がイノベーションの集積地になった時に、そこに大田区の中小企業が入っているということにも意義があると思っています。一緒に製品を作って海外に輸出できるような企業間のネットワークができたらいいですね。

——それでは、どんなことが課題になりそうでしょうか？

製造業の会社がモノづくりできない場所で入居費用に見合う価値をどう生み出すかということですね。それは我々にとって今までにないチャレンジになりますが、具体的なところは入居後に走りながら考えていくことになると思います。

——最後にハネダピオまたはH i C i t yの運営において行政等にご要望はありますか？

そうだなあ…。より使いやすい施設になるよう、エリア全体に5Gを完備してほしいですね。

——貴重なお話、ありがとうございました。

HANEDA×PiO視察ツアーを開催いたします 大田区の新たな発信拠点を是非ご覧ください

開催日時

第8回 令和2年11月11日(水) 13:00-15:00、第9回 15:00-17:00
第10回 令和2年11月13日(金) 10:00-12:00、第11回 13:00-15:00
第12回 令和2年11月18日(水) 13:00-15:00、第13回 15:00-17:00
第14回 令和2年11月20日(金) 10:00-12:00、第15回 13:00-15:00
第16回 令和2年11月25日(水) 13:00-15:00、第17回 15:00-17:00
第18回 令和2年11月27日(金) 10:00-12:00、第19回 13:00-15:00



視察の依頼・お問い合わせは、原則、希望日の2週間前までとさせていただきます。受付は先着順とさせていただきます。予めご了承ください。お申し込み方法は、HANEDA×PiOホームページのインフォメーションよりご確認ください。



<https://www.hanedapio.net/> (公財)大田区産業振興協会 羽田拠点室 TEL: 03-5579-7971 FAX: 03-5579-7972

